P-56

義足ユーザーの健康関連 QOL を決定する因子の検討

新潟医療福祉大学大学院 義肢装具自立支援学分野
郷貴博，坂井一浩，阿部薫，江原義弘
(株) 田村義肢製作所・江川章宏，鈴木啓太
加藤義肢製作所・加藤博務

【背景】

下肢切断者にとって義足は日常生活に必要不可欠なものであり，したがって QOL に大きな影響を及ぼしていると考えられる．包括的 QOL 尺度による切断者の評価では，義足の重要性などの切断者特有の因子については感度が低いため，義足が具体的にどのように QOL へ影響しているのか十分に測ることができないと報告されている[1]．一方，切断者特異的 QOL 評価尺度を用いた研究や，切断者の QOL に影響を与える因子について検証している研究は数少ない．義肢装具士がユーザーの健康関連 QOL (HQOL) を理解することで、より良い義足サービスの提供が可能になると考えられる．

そこで本研究においては，義足ユーザーの HQOL および義足満足度等を既存の切断特異的 HQOL 尺度を基にしたアンケートにて調査し，QOL に関与する因子について検討およびその向上のための考察を行った．

【方法】

1．アンケートとその解析

アンケートは日本語版 PEQ(Prosthesis Evaluation Questionnaire)にある「感覚」，「歩行能力」，「生活満足度」，「歩行満足度」，「義足満足度」，「義足の重要性」に加えて，今回は「基礎情報」の質問事項を設定した．

このうち「歩行能力」のスコアは，この項目に含まれる 7 問の動作の平均点を個人の「歩行能力」のスコアとした．また「義足の重要性」に関する項目においては，義足の外観や重量，耐久性などに関してその重要性を質問した．

有意差検定には Mann-Whitney U-test，相関関係は Spearman の順位相関係数を用いた．

2．対象と方法

新潟市内の義肢製作所 2 社にて義足を製作した方に，調査票を郵送，または製作所にてその場でアンケートを実施した．

アンケート回収率は 42 名中 30 名(71.4%)であった．対象は男性 21，女性 9，平均年齢 63.7±12.9 歳，切断レベルは両側（右足部左下腿）1，下腿 15，膝関節 6，大腿 5，股関節以上 3 であった．

【結果】

1．QOL と相関関係にある項目

QOL の指標として「生活満足度」のスコアを用い，それと関連性のある項目を検定した．その結果，「歩行能力」(r=0.408)，「義足満足度」(r=0.592)，「歩行満足度」(r=0.680)に相関が認められた．また「歩行能力」の項目にうち，「義足をつけての歩行」，「屋内での歩行」，「急坂の上り」，「急坂の下り」のスコアと QOL スコアとに相関が認められた．

2．年齢，性別間における各スコアの比較

65 歳未満と 65 歳以上の 2 群に分類し，年齢による各スコアの比較を行った．その結果，「義足の重要性」の項目のうち，「義足の外観」に有意差が認められ，65 歳未満群の方が義足の外観を気にするという結果を示した．

同様に性別によって比較した結果，「義足の重要性」の項目のうち，「義足に対する視線」に有意差が認められ，女性の方が義足や自身への視線を気にしているという結果が得られた．

【考察】

義足ユーザーの QOL には「歩行満足度」，「義足満足度」，「歩行能力」が関与していることが示唆された．また今回は「歩行能力」の項目のうち，特に基本的な義足歩行と急坂の上り下りという応用歩行が共に QOL に影響を与えていた．同項目の詳細なスコアをみると，急坂の上り下りについては他の動作よりも全体の平均点が低かった．これらにより，義足歩行における急坂での上り下りは，重要かつ困難な動作であることが判明した．坂道での歩行は日常生活において頻繁に遭遇する場面であるため，そのような動作を円滑かつ安全に行えるような部品・継手の開発や，これを考慮したリハプログラムの導入が重要である．この問題が解消されれば，「歩行満足度」が満たされ QOL の向上へと繋がると考える．

また 65 歳未満群や女性が義足の外観や自身への視線が気になるという結果を示したことからも，それらを含む「義足満足度」が QOL に関与することが改めて確認できた．義足は，日常生活において人の目に触れる機会が多い反面，その機能を重視せざるを得ない場合が多く，美的外観は十分ではない．今後は機能を損なわない装飾性の優れた材料やパーツの改善・処方時の考慮が求められる．また外観のみではなく，機能面以外の個々のニーズを把握し，それを反映させた義足の提供が肝要である．その結果「義足満足度」が向上し QOL が高まると考えられた．

【結論】

PEQ を基に義足ユーザーの QOL に関与する項目を調査した結果，歩行については一般的な歩行に加え，急坂の上り下りといった応用歩行の能力が重要であることが示唆された．また，歩行能力以外でも，義足の外観などの個々のニーズを的確に反映させ，義足満足度を満たし，社会参加を促すことができるような義足の提供が求められる．

【文献】

1) 高瀬泉ほか：在宅高齢大腿切断者の QOL に影響を与える因子について，日本義肢装具学会誌，19 巻特別号：46-47，2003